



発行者：ひょうごふれあいランニングパトロール活動推進運営委員会

asics 神戸新聞社 兵庫県警察

著者：中沼 丈晃 (摂南大学法学部 教授)

2020年3月28日発行 第2版

ふれパトに関する
お問い合わせ

神戸新聞社メディアビジネス局企画推進部「ふれパト」係

【TEL】078-362-7077 (平日10:00~17:00) 【MAIL】hyogo2020patrol@kobe-np.co.jp

取り組みについては
公式Facebook-ホームページで
順次公開します。

<https://www.facebook.com/hyogo2020patrol/>



<http://www.fure-pat.com/>



Enjoy! Running!! ひょうごふれあい ランニングパトロール

地域防犯パトロール
推進プロジェクト

ステップアップマニュアル

どうやってリーダーを増やしたらいいの?

コースは固定がいいの？ 変動がいいの？

どんな道路に注意したらいいの？

声かけをどう工夫したらいいの？

犯罪はどのように起きているの？

こんな疑問に
答える
マニュアルです。



目次

1 ふれパトの地区リーダーと地区間交流 P3	
1-1 リーダーのあり方3	1-2 地区間交流3
2 ふれパトのコースと時間 スタートアップ3-1の発展 P4~5	
2-1 コースの設定4	2-2 時間5
3 ふれパトで立ち寄る箇所 スタートアップ3-2の発展 P6~7	
3-1 犯罪発生箇所6	3-3 道路7
3-2 公園6	3-4 駐輪場や駐車場7
4 ふれパトでの行動と視線 スタートアップ3-3,4の発展 P8~9	
4-1 視野を広げる8	4-3 美化活動など9
4-2 声かけを工夫する8	4-4 隊列管理の追加留意点9
5 犯罪の主な種類と特徴 P10~11	
5-1 街頭犯罪 10	5-3 住居侵入 11
5-2 性犯罪 10	5-4 特殊詐欺 11

はじめに

このステップアップマニュアルは、「ひょうごふれあいランニングパトロール」(「ふれパト」)の登録2年目のランナーのみなさんのために書かれたものです。2018年度の第1期の各地区での経験や、登録ランナーのみなさんからの提案を踏まえ、今後ふれパトが継続し発展していくために、心がけていただきたいことと、学んだうえでパトロールに反映させていただきたいことをまとめています。熟読のうえ、登録ランナーである間、保管しておくをお願いいたします。

どうかふれパトが、登録ランナーのみなさんにとって安全で楽しいものであり、その活動を通じて、広く県民が防犯やボランティアに関心を寄せてくださることを祈念しています。

ひょうごふれあいランニングパトロール活動推進運営委員会

1 | ふれパトの地区リーダーと地区間交流

1-1 リーダーのあり方

各地区のリーダーの存在が継続の不可欠な前提

●ひょうごふれあいランニングパトロール(以下「ふれパト」)は、現在、地区毎に、集合日時を決め、コースを設定し、先導役を務める統括リーダー(以下「リーダー」)の尽力があって、広く展開できています。逆に言えば、リーダーの担い手がいなければ、その地区でのふれパトの継続ができなくなります。つまり、リーダーが多くいることがふれパトの普及と継続の不可欠な前提です。

前向きにリーダーを担おうと思える雰囲気づくりを

●リーダーを担う動機づけには、「参加している以上、いつかは自分も」という義務感もあると思います。ただ、推進運営委員会(以下「委員会」)は、「自分ならこんなふれパトをしてみたい」という気持ちがリーダーを担う動機づけになることを期待しています。それゆえに、現在のリーダーが、それぞれの個性や能力を活かして、自分が望むふれパトの形をつくり、「ふれパトにはいろんなやり方があるといいんだな」と登録ランナーのみなさんに思ってもらえる雰囲気ができていけばよいと考えています。「自分が望む」形は、「ワイワイ話しながらさまざまな場所を見て回る」という華やかな形から、「変わらぬペースで距離を伸ばす」という硬派な形まであるでしょう。



▲海沿いで朝日に向かって仲良く集合写真

1-2 地区間交流

地区間交流はふれパトならではの魅力

●いまのふれパトの魅力のひとつは、自分がホームとする地区を持ちながら、他地区のパトロールに参加し、地区間の交流ができていくことです。これは、自治会などの地縁団体が基礎にある従来の防犯ボランティア活動では考えにくかった現象です。いろんな地域を走ってみたいというランナーの希望とともに、各地区のリーダーが工夫をして、同じふれパトでも個性が出ているからこそ、こうした現象が起きていると思います。これは委員会が図って起こしたものではありませんが、委員会は、ふれパトならではの魅力として、多様な個性あるチーム間の交流を見守り、支援していきたいと考えています。

2 ふれパトのコースと時間

スタートアップ
3-1の発展

2-1 コースの設定

固定か毎回設定か

- リーダーの間で、コースを固定にするか、毎回、異なるコースを設定するかで意見が分かれます。これについて、私は、パトロールの頻度からすると、犯罪抑止上も周知上も効果の決定的な差はないと考えるので、チームや地区の状況に応じて決めていただければと思っています。
- ただ、コース設定には一定の時間がかかるとともに、設定したリーダーが急に欠席となった場合に困る事態が生じます。そこで、チーム毎に標準的なコースを定め、常連の登録ランナーなら誰でも先導できるようにしておくといでしょう。

8の字コースの提案

- 多くの場合、コースは円周で設定されます。それに対して、私は、8の字コースもよいのではと考えています。その利点は次のとおりです。①たとえば駅を8の字の結び目とすれば、駅からの道、駅への道が計4つとなり、帰宅する人たちに、姿を見せ、声かけをする機会を増やせます。②土地勘がないランナーにとって、8の字をイメージしてもらい、8の字のいまどの辺りということをときどき案内すれば、いま走っている位置を把握しやすくなります。③4-1で説明する「交差する道路の奥を見る」を合わせて行えば、8の字の内側の“密度”を上げることができます。



▲8の字コースでパトロールを線から面に

あまり気負わず、楽しんで

- 先頭を走るリーダーにとって、コースを試走しておいて、迷うことなく先導できるのが理想です。ですが、コース設定や試走に時間をかけることは、誰でもいつでもできることではありません。みんなに止まってもらい、スマートフォンで地図を確認しても、「あっ間違えた！」と言って引き返すのも、まったく問題ないと思います。犯罪をしようとする者(以下「犯罪企図者」)は、人の様子やまちの雰囲気を見ながら、犯行できる場所を探すものです。防犯を行う私たちも、人の様子やまちの雰囲気を見ながらコースを決める余裕があってよいと考えます。

- 反対に、まち歩きや地図が好きなリーダーは、その能力を存分に発揮してください。みんなに紹介したい場所を探してコースに組み入れたり、コースを記した地図を作成してみんなに渡したりすれば、いつものパトロールに花を添えることができます。



▲リーダーの手書きがかわいいコース地図

2-2 時間

平日晩のふれパト

- ふれパトで現在最も多いのが晩のパトロールです。特に平日晩は、駅から帰宅する人に姿を見せ、声をかけて注意喚起をすることが期待されますし、多くのチームがすでにそのようにしています。これに加えて、駅前の駐輪場や、比較的大きい駐車場の付近を走ることを勧めます(3-4参照)。
- 静かな住宅地では、路上に駐車している車(運転手がいる車も含む)にも目を向けましょう。ただし、警察官の職務質問のようなことは絶対にせず、声かけはあいさつに留めてください。
- 公園への立ち寄り、青少年に声をかけることは多くのチームがしています(3-2参照)。加えて、21時頃から学習塾から帰る児童・生徒が増えるので、このことも意識しましょう。

休日昼のふれパト

- 登録ランナーの多くはお勤めの方なので、朝または昼のふれパトはほぼ休日に行われています。この場合、①大型ショッピングセンター付近を走り、行き交う人に声かけをしたり、駐車場の様子を見たりすること、②反対に、買い物や行楽に出かけるスキを狙う空き巣を防止するために住宅街を走ること、などを意識したらよいでしょう。

平日夕方のふれパト

- 平日夕方は、子どもへの悪意ある声かけや追いまわしなどが多い時間帯です。ただ、この時間帯のふれパトはほぼ実施されていません。委員会では、平日夕方のふれパト実施の可能性を探っています。リーダーのみなさんの試行や提案をお待ちしています。

雨天時の対応

- 雨天時の対応については、たとえば、「〇時時点での降水確率が〇%なら中止」と決めておいて、リーダーからの連絡を待たずに実施・中止を判断できるようにしておくのも一案です。
- パトロール中に雨が降り出した場合には、リーダーは、状況に応じて、パトロールを中止する、ルートを短縮するなどの対応をとりましょう。

3 ふれパトで立ち寄る箇所

スタートアップ
3-2の発展

3-1 犯罪発生箇所

犯罪発生箇所に立ち寄る意義

- 犯罪発生箇所に立ち寄るのには、①再度の発生を抑止する、②なぜそこで起きたのか考えて、今後のコース設定やパトロール中の視点に活かす、という意義があります。
- なぜそこで起きたのか検討するうえでは、(a)人目につくかどうか(防犯カメラも含め)、(b)人が気にしているかどうか(ゴミの散乱など)、(c)対象となる人や物に近づきやすいかどうか、反対にその場から立ち去りやすいかどうか、という点を考えましょう。

兵庫県警察の「ひょうご防犯ネット」

- 子どもへの声かけやつきまとい、女性に対する痴漢や露出、ひったくりなどの街頭犯罪が主な配信内容になっています。コース設定前にホームページを見て、最近、付近で事件が発生していないか確認しましょう。

兵庫県警察の「犯罪発生マップ」

- 「ひょうご防犯ネット」で配信された事件の地点を地図上のアイコンで確認できます。アイコンを押せば、詳細も見ることができます。

警察官提供情報

- 警察署や交番の警察官は、ふれパトランナーに対して、捜査などに支障のない範囲で、「ひょうご防犯ネット」で配信されるもの以外の最新の事案の情報を提供してくれます。ふれパトが抑止力となりうるので、情報提供を受けて、自販機や駐車場などにも視線を向けるとよいでしょう。

3-2 公園

周りから見にくい箇所

- 木や倉庫などで道路からの視線がさえぎられている箇所に加えて、高低差があって視線が届かない箇所は、見て回るようにしてください。加えて、遊具のなかやトイレなどにも目を配りましょう。



▲公園の高低差も視線をさえぎる

人への声かけを積極的に

- 隣に座ってきて、あるいは、前に立って相手を困らす犯行もあります。カップルや知り合い同士に見えても、「暗いので。気をつけてくださいね」などの声かけをしましょう。談笑している青少年についても、喫煙やいじめなどのリスクがあるので同様です。ただし、決して追及などはせずに、おかしいと思ったら、迷わず110番に電話してください。



▲ベンチに座っている2人にもあいさつを

3-3 道路

横からの自然な視線が注がれない道路

- 学校や工場の壁が続く道路、道に対して直角に立ち並ぶ団地の横の道路、大きな家の壁が続く道路、高架に沿う道路などは、ひったくりや痴漢といった、後ろから近づき犯行後に逃げ去る形(ヒット&アウェイ)の街頭犯罪が起きやすい場所です。ふれパトの元気な姿を見せる意義が大きいと言えます。



▲片側が壁や高架の道路を走る

車両一方通行の道路

- 車両一方通行の道路では、自動車やオートバイからの視線は一方にのみ限られます。その方向に向かう人や自転車に後から近づけば、自動車などからは背中しか見えません。そうした環境を悪用して、ひったくりや性犯罪に及ぶ犯罪企図者がいます。車両一方通行を逆に走れば(あくまでランニングで)、そうした者への前からの視線を増やすことができます。



▲車両一方通行を逆に走る

蛇行する道路

- かつて、ひったくりが多発していた頃、蛇行する道路が犯行場所としてよく狙われていました。犯行後逃げる際、蛇行する道路の形状ゆえに、犯人の特徴をつかめる時間が短く、行方がわからなくなるという背景がありました。ひったくり以外のヒット&アウェイ型の街頭犯罪にとっても事情は同じなので、蛇行する道路を積極的にコースに入れてください。

3-4 駐輪場や駐車場

事件数が多い犯罪を減らすために

- 事件の数が多く自転車盗や車上ねらいを防ぐため、駐輪場や駐車場の付近をパトロールすることを勧めます。犯罪企図者にとっては、道路に面した屋外の管理人がいない、防犯カメラが設置されていない駐輪場が「仕事しやすい」場所です。駐車場については、鉄道の高架付近など、人はあまり通らないけれど、駐車車両は多い比較的大きい駐輪場が要注意です。



▲歩道沿いの駐輪場横をパトロール

4 ふれパトでの行動と視線

スタートアップ
3-3、4の発展

4-1 視野を広げる

交差する道路の奥を見る

- 交差する道路の奥を見ることで、パトロールでカバーする範囲が、走った軌跡の線上だけでなく、面状に広がります。実際、犯罪は大きめの道路からひとつ入った場所で起こる傾向があり、この視線は犯罪抑止のうえでも重要です。



▲横断歩道を渡るときに枝道側を見る

坂も死角として考える

- 坂は死角をつくります。坂の上だけでなく、写真のように、なだらかな下り坂も、手前の道路からの自然な視線が減ります。意図して坂の方を見る、あるいは、無理ない程度でコースに組み込みましょう。



▲意外と視線が届かないなだらかな坂

4-2 声かけを工夫する

反対側の歩道の歩行者にも声をかける

- 声かけは、同じ側の歩道ですれ違う人だけでなく、車道の向こうの人にもするようにしましょう。後方から近づいて痴漢などをしようとする犯罪企図者は、20mほど後方から接近する機会をうかがっていると言われます*。声かけは、そうした行為を思い留まらせる抑止力になります。

*参照 清永賢二・清永菜穂『犯罪者はどこに目をつけているか』新潮新書。



▲20mは電柱の間隔くらい

声かけの役割分担をする

- リーダーのみなさんから、「後から大声であいさつしたら驚かすことになる」「何人も同じあいさつをしたらかえって迷惑では」という声を聞きます。同時に、①みんなで揃ってあいさつする、②前方は「こんにちは」、真ん中は「パトロール中です」、後方は「気をつけてお帰りください」と役割分担をする、といった工夫をしているチームもあります。そのほか、「後からランナーが近づきます」と優しく声をかけるなど、チームで話し合っ工夫をしていただければと思います。

4-3 美化活動など

美化活動

- パトロールをしていて、道端や公園にゴミが落ちているのを見て、「走っているからゴミは拾えないな」と残念に思うことがあります。ただ、チームによってはレジ袋を持って走って、その袋に収まる範囲でゴミを拾っている例もあるので、同様にするのも一案です。

市役所などへの連絡

- 街灯が消えている場合や、カーブミラーがおかしな方向を向いている場合など、公共の設備に不具合があると発見したときは、その設備に貼ってあるシールなどで管理者を確認したうえで、連絡をとりましょう。その際、管理番号が書いてあれば、それを控えておくと、連絡時に便利です。

4-4 隊列管理の追加留意点

信号待ち時も気を配る

- 信号待ちをするとき、交差点の角にランナーがたまり、横に行き交う歩行者や自転車の通行の障害になることがあります。隅に寄る、隊を分けるなどの指示をリーダーが適切に出しましょう。



▲信号待ち時も通行の妨げにならないように

暗い道では細心の注意を

- 街灯が少ない暗い道を走るときは、走るペースを落としましょう。そのとき、ランナー間の縦の間隔が詰まりやすいので、急な停止にも対応できるよう間隔を保つ意識が必要です。加えて、先頭のリーダーは、停止・右左折の指示を早めに出すよう心がけてください。



▲夜のパトロールでは各自でライトを持参する

緊急連絡先カードの所持を確認する

- 委員会では緊急連絡先カードを登録ランナーに配布しています。リーダーはこのカードの予備を持参し、登録・一般の別を問わず、カードを持っていないランナーには記入し、各自で持ってもらってください。

事故発生時は素早く対応する

- 万一、ランナーが転倒し、かなり出血していたり、頭を強く打ったりした場合、本人が「大丈夫」と言っても、速やかに119番に電話し、救急車を呼んでください。原則として、救急車にはリーダー以外の登録ランナーが同乗し、チームを率いるリーダーと連絡を取り合います。リーダーは、状況に応じて、パトロールを中止する、ルートを短縮するなどの対応をとりましょう。終了後、事故発生について事務局にご連絡ください。
- 事故や事件を目撃した場合や、あるいは、いわゆる徘徊が疑われる高齢者を見た場合などは、速やかに110番に電話してください。110番に電話した人と、必要に応じて数人は現場に残り、警察官の到着を待ちます。リーダーは、状況に応じて、パトロールを中止する、ルートを短縮するなどの対応をとりましょう。

5 犯罪の主な種類と特徴

5-1 街頭犯罪

自転車盗

●犯罪のなかで最も認知件数が多い罪種が窃盗(全国の刑法犯の約7割)であり、そのなかで最多の手口が自転車盗(全国の窃盗犯の約3割)です。すなわち、身近な自転車の盗難を防止することは、少なくとも数値上は治安の改善に大きく貢献する結果になります。最近、ロードバイクや電動自転車といった高価な自転車が転売目的で盗まれるケースが目立ちます。加えて、電動自転車のバッテリーの盗難も相次いでいます。盗まれた自転車の約6割が鍵がかかっておらず、盗難場所で最も多いのは駐輪場、次いで住宅というのが現状です。

車上ねらい・部品ねらい

●車上ねらいと部品ねらいの認知件数を合わせると、窃盗のなかで、自転車盗と万引きに次ぐ数になっています(全国の窃盗犯の約1割)。多く盗まれているのは、車上ねらいではバッグ・財布類、部品ねらいではナンバープレートです。車上ねらいでは、ゴルフバッグや釣り具、電動工具も転売目的で狙われています。盗まれたナンバープレートは、次の犯罪を行うのに使われるので、防止の意義がより大きいと言えます。

ひったくり

●ひったくりは、全国でピークだった2002年に52,919件の認知件数があったものが、2019年には1,553件まで減りました(約97%減)。刑法犯全体では同時期に約74%減ですので、ひったくりは他の手口と比較しても大幅に減ったと言えます。ただし、2019年、兵庫県で96件のひったくりが起きているのも事実です。ひったくりは、する方とすれば生活費や遊ぶ金欲しさに安易に思いつく犯罪ですが、される方にとっては転倒しての大怪我にもつながる犯罪で、被害者に大きな身体的・心理的影響を与えます。特に夜間、自転車の前かごにバッグを載せている人には注意の声かけをしていただきたいと思います。

5-2 性犯罪

強制性交等・強制わいせつ

●強制性交等とは2017年まで強姦と呼ばれていた罪種です。この強制性交等や強制わいせつは、回復が困難な心の傷を被害者が負う結果になるので「魂の殺人」とも言われます。それゆえ、被害を未然に防ぐ必要が特に大きい犯罪です。他方、自分が被害者になる危険を認識してもらいにくい犯罪でもあり、防犯に関わる者が広く継続的に注意喚起をしていくことが大切です。兵庫県は、強制わいせつの犯罪率(人口で割った認知件数)が大阪府、埼玉県に次いで高いので(2019年)、なおのことです。夜、スマートフォンをしながら、あるいは、音楽を聴きながら歩く人は、犯罪企図者に狙われやすいので、そうした方への声かけを根気よくしていきましょう。

公然わいせつ

●主に男性による女性に対する下半身露出のことを指します。2019年、兵庫県では152件起きています。強制わいせつ(338件)の約半数です。寒い季節は少ないだろうと思いがちですが、発生頻度に季節はあまり関係していません。自転車や原付で女性に近づいてきて、露出をして驚かせ、逃げていくという手口が多いです。比較的限られた範囲で連続して発生する傾向があるので、ひょうご防犯ネットなどで地区での発生を知ったら、発生箇所付近をパトロールコースに組み入れるのがよいでしょう。

5-3 住居侵入窃盗

空き巣・忍び込み・居空き

●住宅に侵入して金品をとる窃盗は、①空き巣(兵庫県2018年850件)、②忍び込み(同245件)、③居空き(同103件)、の3つの手口に分けられます。家の人が出中に侵入するのが①空き巣、就寝中に侵入するのが②忍び込み、入浴中などのスキを見て侵入するのが③居空きです。犯罪企図者は、まちや人の様子を見ながら、“仕事をする”地区や家を選んでいきます。ですので、たとえば、晩のふれパトで「こんばんは」とあいさつをしながら歩くことは、犯罪企図者にその地区での忍び込みを諦めさせる効果を持つと言えます。



▲晩の住宅街での「こんばんは」は大きな抑止力

5-4 特殊詐欺

治安対策上の最大の課題

●面識のない家の固定電話に電話をかけて、息子や役所、銀行などをかたり、お金をだましとる特殊詐欺は、いまの治安対策上の最大の課題です。2019年、兵庫県では657件、約10億9,000万円の被害がありました。多くの場合、平日午前中に電話をかけ、当日にどうしてもお金または手続きが必要などと言い、駅などにお金を持ってこさせる、あるいは、家に取りに行く、ATMから送金させるといった手口をとります。被害者の多くは高齢者です。現在のふれパトは平日昼間に行われることはあまりありませんが、お勤め世代の方が多いので、ふれパトに参加しているのをきっかけに、みなさんのご両親などに注意喚起をしたり、迷惑防止機能付き電話を取りつけてあげたりするなどの対策にご協力いただければと思います。